門沢橋小学校　学校運営協議会　議事録
（令和８年度　第２回）

１　日時　　令和８年１０月６日（火）　10:00～11:50

２　場所　　門沢橋小学校 多目的室

３　出席委員　　牛村忠雄委員、富塚悟委員、大澤力委員、仲谷幸子委員、
西海明夫委員、大河原俊一委員、清水澄雄委員、
境景子委員、中村昌善委員、日野玄隆委員

４　会議の内容

（１）挨拶

牛村委員長…地域の状況： 連日の雨による被害を心配したが、海老名市においてはそれほどの被害がなく安心している。10 月は運動会などの行事や案件が多く予定されている。今後の温暖化や高温による自然界への影響を懸念しており、教育現場へ悪影響が出ないことを願っている。

境 校 長…天候と運動会練習： 2 学期始動時は長雨や台風で外遊びができない日が続いたが、ようやく晴れ間が見え、外での運動会練習が始まっている。
１年生と２年生でインフルエンザによる欠席者が増えたため、学級閉鎖を実施した。来週末の運動会を控え、職員一同で感染対策を強化している。
運動会練習に一生懸命励む児童がいる一方で、練習の波に乗り切れない児童もいるため、担任以外の職員も加わってサポートを行っている。

（２）校内巡視　※授業や児童・教職員の様子を見て回った

＜校内巡視後の意見交換＞

富塚委員…昔の学校と比べて国際級や通級、すてっぷルームなどの仕組みが進化しており、先生方の対応も非常に丁寧で手厚い。

仲谷委員…みんな仲がよさそうに感じる。よい雰囲気だった。

大澤委員…先生方が丁寧に対応してくださっていた。天井がはがれている箇所があった。施設・設備面における予算措置や改善を期待する。

大河原委員…絵や習字が掲示してあった。個々の作品から児童指導や支援にいかすこともあるだろう。また、鑑賞して感性を豊かにすることにもつながる。

西海委員…小中学校のリフォーム等に携わったことがある。校舎の改修は今後も継続が必要だろう。１年生から６年生までこうして見てみると、成長過程がよくわかる。また、今の時代は物がそろっている。たとえば、ICT 機器。大型のテレビ。エアコン。

境 校 長…5～6 年生（および中学生）が使う端末が夏終わりから「Chromebook」に一斉変更された。

日野委員…大型テレビの導入により、授業でのメリットとして、これまでのプロジェクターとスクリーンにおいては理科の「星の観察」の授業などで画面が真っ黒に見え辛かったが、今回の新しい大型テレビでは鮮明に見える。エアコンについては、海老名市は周辺の市町村よりも早い時期にエアコンが順次導入されたため、設置から随分と年月が経っている。自分が教員になった時には既にエアコンが付いていたため、設置から 20 年近く経過しているのではないか。

中村委員…現状の課題としては、夏の酷暑日は設定温度をかなり下げても効きがよくない。夏休みにフィルターを含めた一斉清掃を行ってもらったが、あまり効果はなかった。

牛村委員長…変わらない良さもある。教室の黒板の端に児童が日記や気づきを書くような昔ながらの文化が、今も変わらず続いていることに感銘を受けた。今後も、学校生活の中で、子どもたちがよりよく育つことを期待する。

（３）報告事項（日野総括教諭より）

「全国学力・学習状況調査」の結果と門沢橋小学校における取り組み

これまでの取り組みと成果

・昨年度から全教員で授業改善と学力・生活向上に向けた協議を開始した。

・取り組みの結果、国語の漢字や算数の基本計算においては概ね成果が表れている。

〔国語における課題〕文章の構成を捉える力、記述力・表現力

〔算数における課題〕立体・数量関係

＊今後の指導方針＊

全ての教科の基盤の書く力をつける。

言葉のインプット、身につけた語彙で自分を表現する力を養う。

〔児童の生活・心理面〕

【強み（良好な結果)】

困っている友達を助け合える関係性が築けている。

教員から認めてもらえていると感じている割合が非常に高い。

約 9 割の児童が「学校が楽しい」と前向きに捉えている。

【課題】

不規則な生活リズム：就寝時間が毎日異なるなど、生活リズムが不規則。

低い自己肯定感：「自分には良いところがない」と捉える児童が多い。

粘り強さの不足：わからないことを追求しようとする姿勢が弱い。

＊今後のアプローチ＊

自分の良さや認めてもらった経験を振り返り、自己肯定感を高めながら次の目標を考えさせる。

日々の授業や家庭・地域との連携の中で、学習したことを社会で活用できるような機会を教員側からも提供していく。

（４）議事

〇学校予算について（中村教頭より）

特色ある学校づくり予算（4 本の柱）

① 全校稲作活動：稲も順調に育っており、協力員への対応や肥料などの諸経費に予算を使用している。

② フルインクルーシブ教育： 新設されて間もない「すてっぷルーム」の教材や学びにつながる物品の購入に充てている。

③ 校内研究の充実：市や県の指導主事を招いて講義や教員への助言を依頼する予定。研究充実のための経費に予算を使っていく。

④ 命の授業の実践：今年度から新たに予算に組み込んだ。講師を招いて授業を実践していく。

予定予算の執行状況：約半分の執行状況。予定通りに執行される見込みである。

〇フルインクルーシブ教育への取り組みについて（境校長より）

特別なカリキュラムを組むというより、すてっぷルームや国際教室、特別支援学級に在籍する児童等が困らないよう、日々の生活の中で壁を作らず全職員で全児童に関わる姿勢を重視している。教室という枠を超え、同じ空間スペースの中で様々な背景やニーズをもつ児童が共に学び合う形をイメージしている。今年度から従来の「介助員」が「インクルーシブサポートスタッフ」へ名称変更され、支援級の児童だけでなく教室全体の多様なニーズに対応する配置へ変わった。保護者が「特別支援学級に在籍しながらも、日常は支援級ではなく通常級（一般の教室）で学ばせたい」と希望することもあるが、もちろん可能であり、実際にそのような対応をしている児童も校内に存在している。

牛村委員長…一人ひとりのニーズに合わせた対応が求められている。
その他委員…意見交換

〇地域と学校の連携について（日野総括教諭より）

別紙を参照しながら、今年度のキャリア教育について説明。
地域の方々の協力を依頼。

（５）その他

・第３回門沢橋小学校学校運営協議会
令和９年２月１６日（火）１０：００～

以上